

巻 頭 言



長期鉄鋼需要について

村 田 巖*

躍進日本の粗鋼生産量は戦前の700万tベースから昭和34年度においては1800万tに達し、さらに昭和45年度を目標とする長期鉄鋼需要の見通しは経済企画庁、通産省、鉄鋼連盟、国連欧州経済委員会等それぞれ多少の相違はあるが最高3800万tとなっており、吾々はこれ为目标として生産設備の増強、原燃料の確保、輸送の合理化等の長期計画を検討し具体案を着々進めていた。しかるところ最近池田内閣の所得倍增計画に即応して鉄鋼連盟では4500乃至4800万tの需要の見通しを策定発表された。

果してこの計画がこゝ10年の間に達成し得るか否かは今後の経済の伸長率、鉱工業生産の伸びの速度、あるいは資金計画の如何によつて左右されると思うが、国民経済生活安定のため、国力発展のため必ず達成すべき計画である以上、この計画遂行のためにはさらに必要な原燃料の確保や販路の開拓を国全体として強力に取進めて行かなければならない。上記の生産高を考えると人口一人当りの鉄鋼消費量としては現在の200kg程度から400kg程度に到達したに過ぎず、恐らく米国、西独、カナダ、スウェーデン、英国等のそれに比してなお低位にある事を思えば文明国としては更に5000万t以上の計画を策定しても決して夢であるとは考えられない。

従つて私は今回鉄鋼連盟で発表された数字は最低線と考えている。是非共この数量の生産は一年でも早く達成できるように合理的かつ総合的な具体策の樹立が必要である。差当つての問題として自主調整、資金計画、貿易自由化対策、計画速度等については官民一体となつて検討調整を行ない、悔を残さぬように推進することが必要と思われる。

さて、この生産計画遂行に対処してわれわれ鉄鋼関係の技術者としては大なる希望と

* 本会北海道支部長、富士製鉄室蘭製鉄所副所長

勇気を持つと同時に責任の重大なることを痛感する次第である。

先ず量産に対しては現有設備の合理化と新鋭設備の増設等によつて達成できるが、世界市場を相手として競争するためには成品が低価格であること、優秀な成品であることが絶対必要条件であつて、価格の引下げには低廉なる原燃料の確保のほか、貿易自由化対策関税対策等の必要もさることながら、I. E. および O. R. 等の採用による作業改善を強力に取進めなければならない。

また、品質の向上には、さらに進んだ技術標準、作業標準の設定とか品質管理の徹底等一段の合理化を計らなければならない。

最近の日本における鉄鋼技術の進歩向上、特に作業能率の向上は列国に比してむしろ優位にあつて、例えば高炉におけるコークス比や平炉の原単位等は世界注目の的となつていところであるが、質的な面を見ると必ずしも樂觀を許さぬものがある。

次に作業成績向上の一例として最近一カ年間に於ける室蘭製鉄所の 200 t 固定式平炉の成績を示した。

1 回当り 製鋼時間	1 回当り 良塊 t 数	1 時間当り 良塊 t 数	t 当り O ₂ 使用量 (95% O ₂)	熱量原単位	銑鉄配合率
4.57	200	40	34m ³	200(×1000 kcal)	72%

最近における原子力の利用、電子工学の発達、高分子化学の抬頭に伴い超高張力鋼、超耐熱鋼、耐食材の要望や高性能の電気鉄板の要求は今後益々切なるものがあり、鉄鋼の生産にたづさわる吾々技術者のたゆまざる努力と覚悟を要する所以である。

もちろん今後 5 年 10 年後における優秀なる技術者の育成なくしては上記の計画や目的の達成は極めて困難なことである。幸いにして斯界の各方面から今後日本の重化学工業振興に於ける意見や具体策等が澎湃として興り着々と軌道に乗りつつあることは誠に慶賀に堪えないところであり、国家百年の計を誤まらず開花結実することを念願する次第である。